

国際会議への派遣支援経費報告書

派遣者： メディア文化論 講師 坂田邦子

派遣地： Equatorial Hotel (マレーシア、ペナン)

日程： 2006年7月16日(日) - 21日(金) (6日間)

会議名： 15th AMIC Annual Conference

内容： 第15回目となるAMIC (Asian Media Information and Communication Centre) の国際会議は、"Media in Asia: Aspirations Choices and Realities" (「アジアにおけるメディア：希求、選択そして現実」) というテーマで行われた。この会議は、アジアのメディア研究者だけではなく、メディア政策に関わる政府関係者、メディア関係者などが、アジアだけでなく、欧米、オーストラリアなどからも集まり、日本の学界に身を置いているだけではなかなか見えてこない(アジアの)メディア社会の現実そして現在を学ぶ大変貴重な会議である。

派遣者は、この会議において、"Questioning Cultural Diversity in Japanese Media: From the Experience of "Mysteries in Asia" Project"というタイトルで、共同研究者の北村順生(新潟大学)、崔銀姫(佛教大学)とともに共同発表を行った。メディア研究の分野において、国際会議で日本の研究者が発表することが少ないということもあり、日本のメディア社会の構造的な問題(とりわけ文化の多様性という文脈から)、マスメディアにおける文化表象の問題、それを乗り越えていくための手段としての実践的な試みに関する私たちの報告に対して、会場から様々な質問があがり、活発な議論が行われた。同時に会議における各国の発表者からの報告、とりわけ途上国におけるメディア(政策)の状況、実践に関する報告は、文化的、社会的文脈によって大きく異なるものの、どれもアジアのメディア社会のリアリティを反映した非常にインパクトのある報告で、メディア研究におけるさらに広い視野が必要とされていることが実感された。

以上、今回のAMIC国際会議への参加により、知識だけでなく強いインスピレーションを得ることができ、今後の研究において大きな成果を得ることができた。